

稲荷塚古墳(多摩市)

左前方に見える恋路稲荷神社が鎮座するマウンドが稲荷塚古墳/南西側から見たところ



近づいて見たところ/全国的にも希少な八角形墳で7世紀前半の築造/二段築成で周溝が巡っていたと云う



東京都指定史跡 いな り づか こ ふん 稲荷塚古墳

古墳とは、土を盛り上げてつくられた墳丘をもつ有力者の墓で、3世紀の末頃から8世紀の初め頃にかけての約400年間に、全国で15万基ほどつくられたといわれています。この稲荷塚古墳は、7世紀の前半頃につくられたものとみられ、古墳の形は全国的にも珍しい八角形と考えられます。

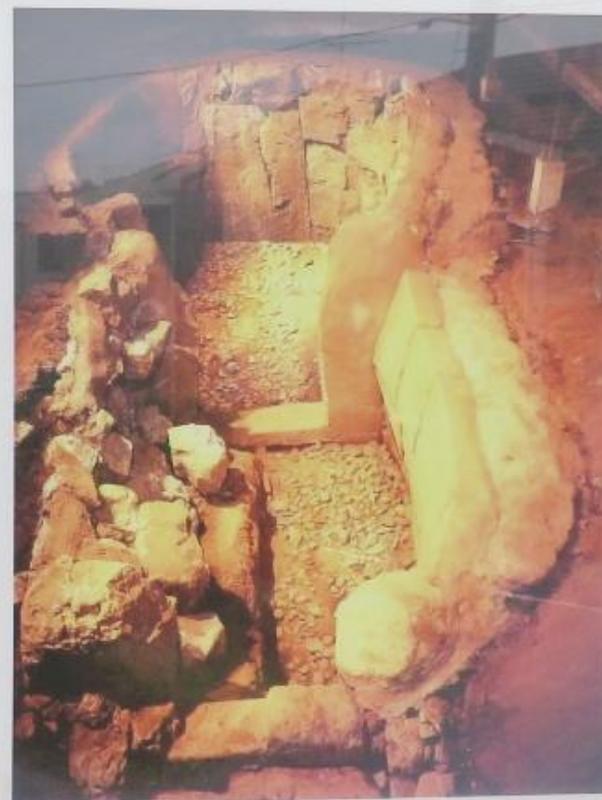
古墳の全長は38mで、一番外側に幅2mほどの周溝とよばれる空堀がめぐっています。その内側が長さ34mの墳丘で2段に築かれています。墳丘1段目は周溝の内側に6mでめぐる低い段で、地上から見て約2mの高まりとして残っている部分が長さ22mの墳丘2段目にあたります。もとは4mほどの高さがあったとみられますが、明治時代に墳丘2段目を削って神社が建てられたことから、半分ほどの高さになっています。

墳丘2段目には、遺体を葬った石でつくられた部屋があります。横穴式石室とよばれるもので、天井部分の石はなくなっています。全長約7.7mで、一番手前が通路である羨道、真ん中が前室、一番奥が玄室という部屋になっています。部屋の底には握りコブシほどの石が敷きつめられています。横穴式石室は河原石などの自然石を積みあげてつくられるものが多いのですが、この古墳では凝灰岩質泥岩という柔らかい石を平らに削って加工した切石とよばれる石材を組み合わせて精巧な部屋が作られています。また、玄室奥壁には幅約1.2m、高さ約1.6mの鏡石とよばれる一枚石や、玄室と前室の境には高さ1.7mほどの巨大な門柱石が使用されており、当時の高度な技術をうかがうことができます。

稲荷塚古墳の石室は、木造の覆屋で露出公開してまいりましたが、非常にもろい石材でつくられており、傷みが激しくなってきたことから、薬品などによる保存修理を行い、埋め戻して保護することになりました。石室の埋まっている位置はブロック舗装で示してあります。

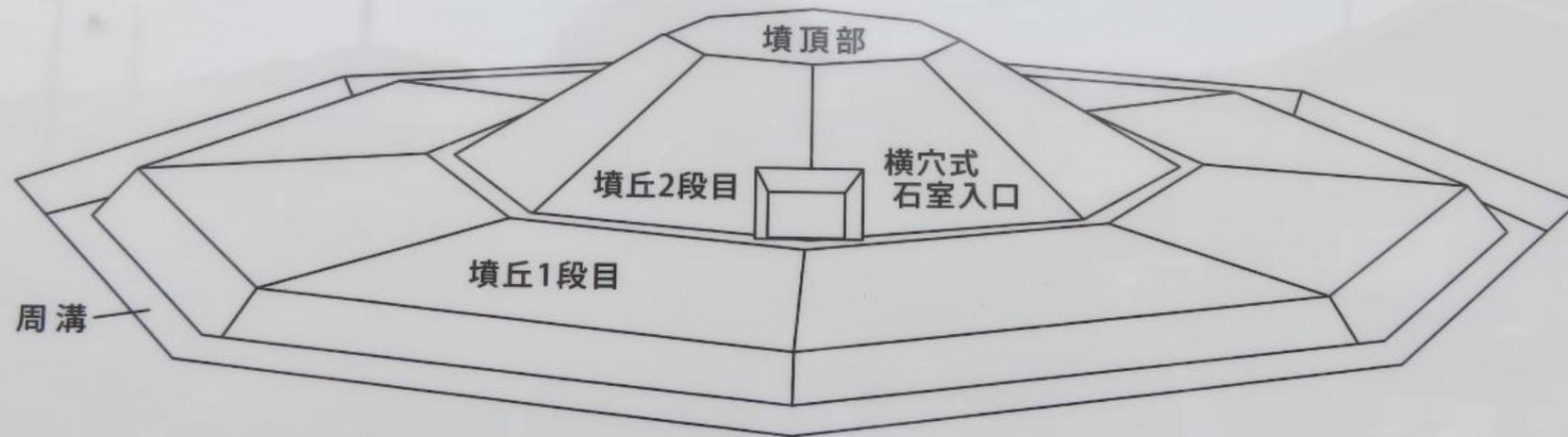


稲荷塚古墳復元想定図



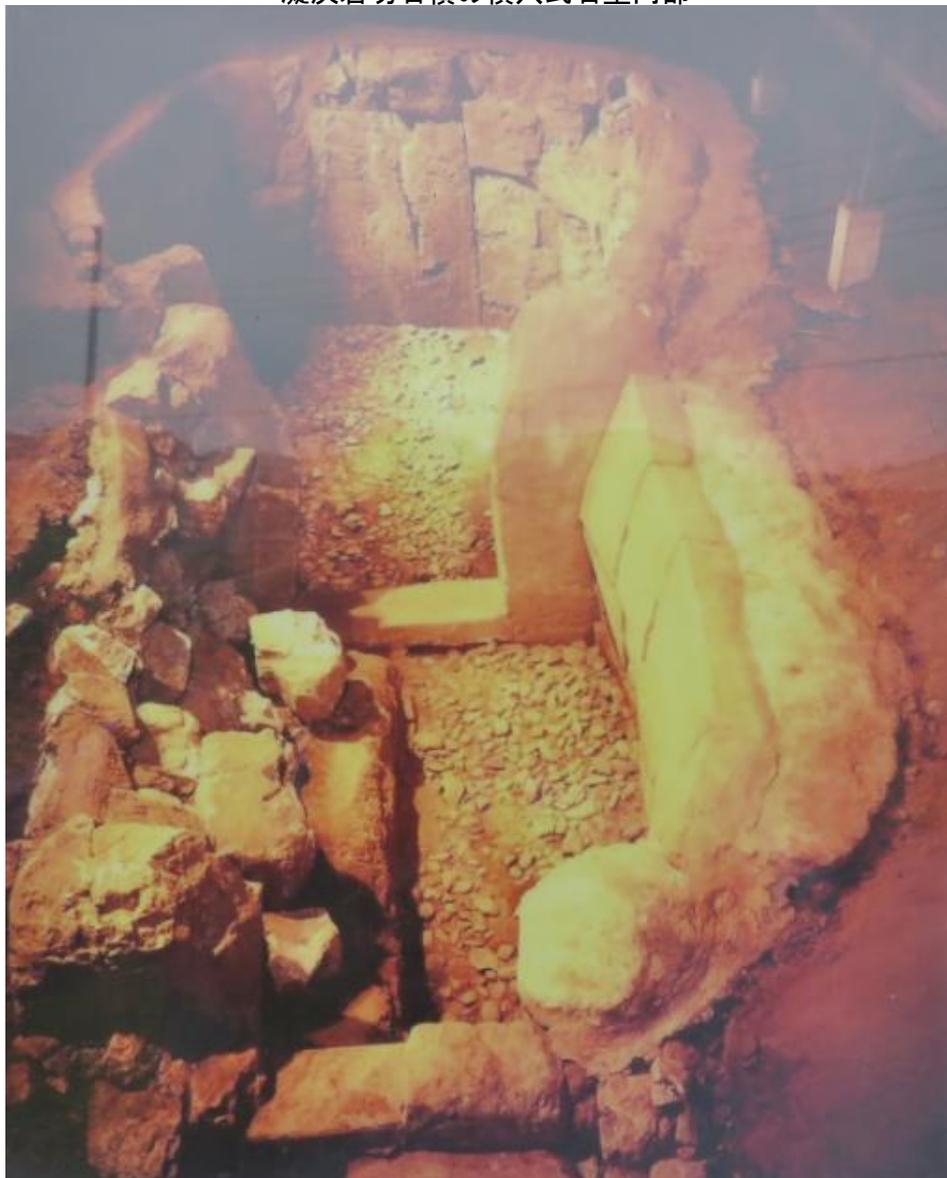
横穴式石室

八角形墳とされるものは、この稲荷塚古墳の他に全国で京都府の御廟野古墳、奈良県の段ノ塚古墳・中尾山古墳・野口王墓古墳・牽牛子塚古墳、兵庫県の中尾山古墳、広島県の尾市1号古墳、群馬県の三津屋古墳・一本杉古墳・伊勢塚古墳、山梨県の経塚古墳と云う



稲荷塚古墳復元想定図

凝灰岩切石積の横穴式石室内部



こちらにも説明坂がある



東京都指定史跡

いなりづかこふん

稲荷塚古墳

所在地 多摩市百草一四〇一 稲荷神社内
指定 昭和二八年六月一九日 旧史跡指定

昭和三三年一〇月七日 史跡指定



稲荷塚古墳は多摩丘陵の北辺、多摩川に注ぐ大栗川右岸の舌状台地上に立地しています。凝灰岩の截石切組積で築かれた胴張り複室構造の横穴式石室を主体部とします。石室は全長約七m、玄室部高約二mです。築造年代は七世紀前半と推定されています。昭和六一年・平成二年の墳丘周囲の確認調査では周溝が確認され径約三十四mの円墳とされましたが、畿内などで十数例が知られるにとどまる、全国的にも類例が少ない八角形墳とも考えられています。平成六年の調査では、墳丘下部に一直線に並ぶ貼石が確認されました。これは墳丘裾部に配置された装飾や区画のための外護列石の可能性があります。

外塚幅三八mで幅二m周溝が巡り、その内側に復元高四mの墳丘が想定されています。二段築成で、墳丘一段目は幅六mのテラス状を呈しています。墳丘二段目は対角径二二mで、ここに主体部が構築されています。主体部の中軸線は稜角に一致しています。設計において、高麗尺（一尺 \parallel 三五・五cm）が基準尺として使用されたと推測されます。副葬品の内容は不明です。周溝東北側から七世紀前半頃と思われる土師器甕・坏の破片が出土しています。現在、石室は保護のため埋め戻されていますが、平面形が分かるよう表示がなされています。

平成二二年三月 建設

東京都教育委員会

文化財を大切にしましょう

右手に標柱が立っている



こんな塩梅



左手の墳丘を見たところ



墳頂に鎮座する恋路稻荷神社社殿





振り返って見たところ



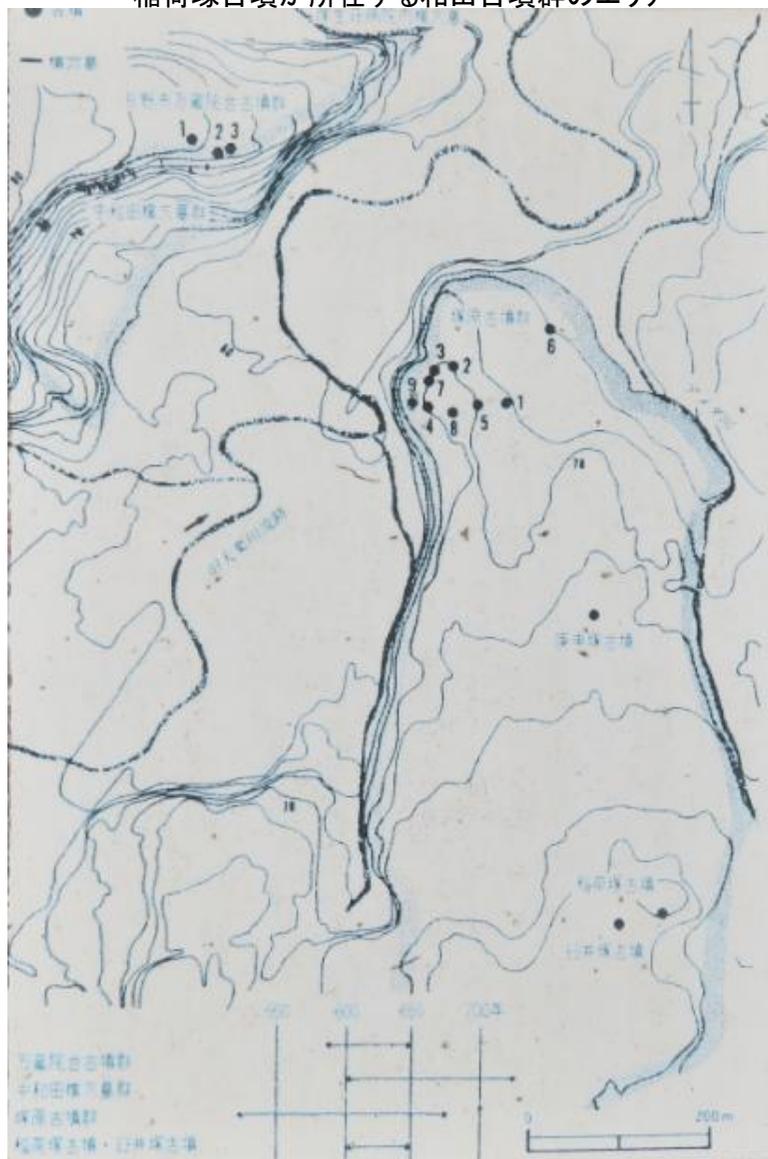
足元の白い部分は横穴式石室の位置を示していると云う



南東隅にも標柱が立っている



稲荷塚古墳が所在する和田古墳群のエリア



大栗川右岸、和田・百草地区の丘陵上には、六世紀前半頃から七世紀中頃にかけて造られた稲荷塚古墳をはじめ、白井塚古墳・庚申塚古墳・塚原古墳群など多くの古墳が存在します。また、大栗川をはさんだ対岸の十二社神社から厚生荘病院にかけての丘陵斜面には中和田横穴墓群、その丘陵上には日野市万蔵院台古墳群があります。これらをまとめて和田古墳群と呼んでおり、都内でも有数の古墳群のひとつに数えられます。



塚原9号古墳横穴式石室

塚原古墳群・庚申塚古墳・万蔵院台古墳群は、直径一〇m台の円墳で、川原石を用いた小規模な横穴式石室を埋葬施設としており、地元の豪族が複数世代にわたって築いたものと思われます。その集団の一部は、七世紀以降、墳丘を持たず斜面に埋葬空間を掘り込んだ中和田横穴墓群を築くようになります。これらに対して墳丘や石室の規模や内容で傑出している稲荷塚古墳は、地元豪族よりも上位の立場にあった有力人物が葬られたものと考えられます。

多摩市教育委員会

その南東側から見たところ



東側から見たところ



北東側から見たところ



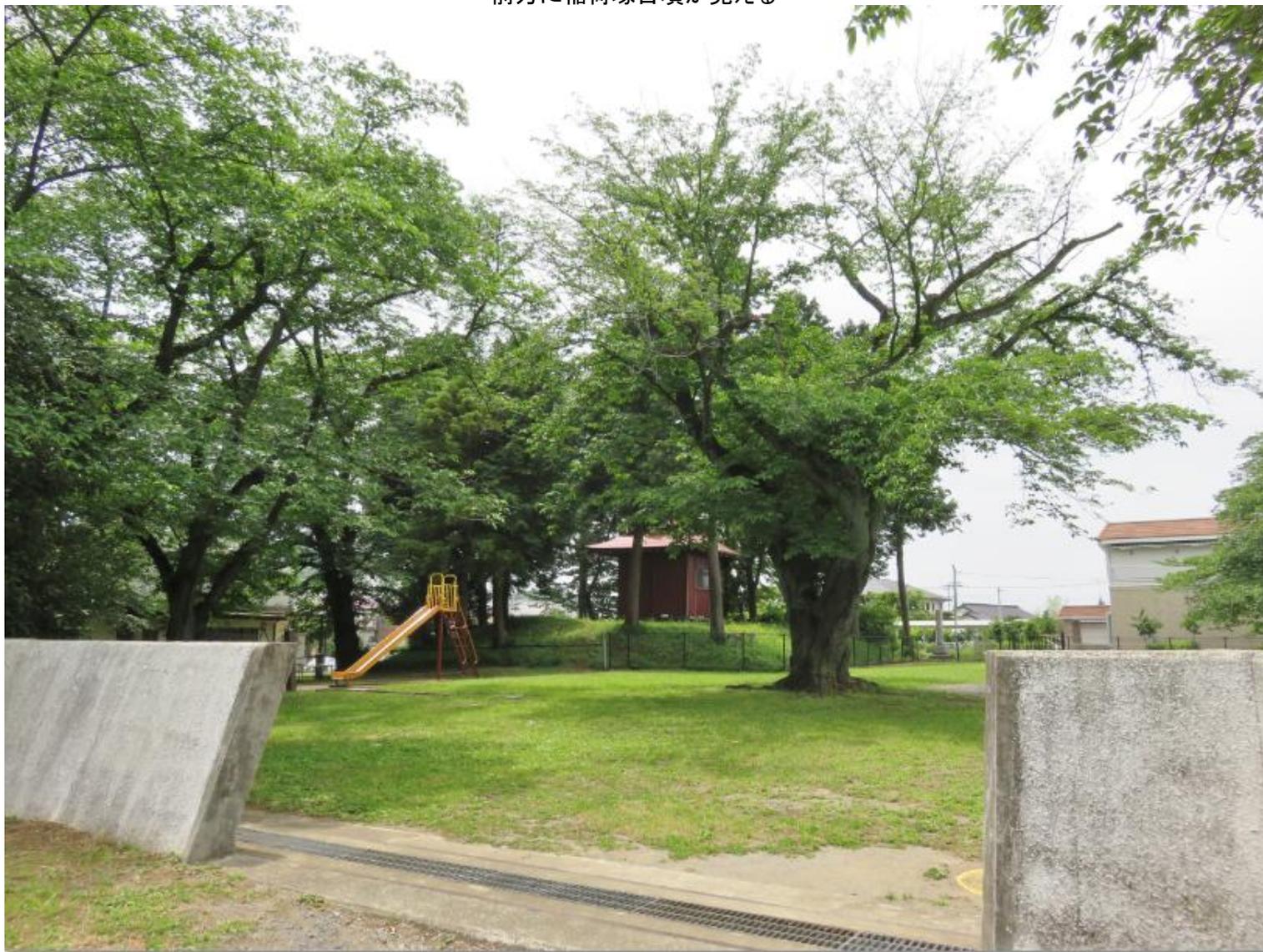
北側から見たところ



さて、ここは稲荷塚古墳の北側にある稲荷塚児童遊園入口



前方に稲荷塚古墳が見える



右手を見たところ/ここが児童遊園のエリア



そのエリアに資福院跡と記された標柱が立っていた





この付近には江戸時代（18世紀）黄檗宗の寺があった。稲荷塚古墳脇にある明塔は二代目住職の墓で享保十五（1730）年のもの。また深さ8mの井戸が発掘され、近畿産の陶器等部内では珍しい遺物が出土した。

多摩市教育委員会



これが卵塔の二代目住職の墓



これは南東側から稲荷塚古墳のある児童公園を見たところ



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/t_tamam_inari/

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2016/12/30/000000>

<http://gogohiderin.blog.fc2.com/blog-category-99.html>

<http://tosyokan-bicycle.cocolog-nifty.com/blog/2018/04/post-19d3.html>

<https://ameblo.jp/fookky/entry-12288123130.html>

<http://michikusa520.blog.fc2.com/blog-entry-49.html>

(参考)八角形墳の事例

三津屋古墳(北群馬郡吉岡町)



経塚古墳(笛吹市)



伊勢塚古墳(藤岡市)

